

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月14日

【四半期会計期間】 第7期第3四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

【会社名】 株式会社RS Technologies

【英訳名】 RS Technologies Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 方 永義

【本店の所在の場所】 東京都品川区大井一丁目47番1号

(平成28年9月26日から本店所在地 東京都品川区大井一丁目23番1号カクタビル
4階が上記のように移転しております。)

【電話番号】 03(5709)7685(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 鈴木 正行

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区大井一丁目47番1号

【電話番号】 03(5709)7685(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 鈴木 正行

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第6期 第3四半期 連結累計期間	第7期 第3四半期 連結累計期間	第6期
会計期間	自 平成27年1月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日	自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日
売上高 (千円)	3,913,079	6,271,203	5,545,500
経常利益 (千円)	720,159	491,870	937,865
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	212,477	242,280	304,248
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	187,771	168,243	284,848
純資産額 (千円)	2,544,246	2,820,123	2,644,121
総資産額 (千円)	8,738,680	10,243,484	9,737,737
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	39.78	44.58	56.72
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	38.59	43.29	55.04
自己資本比率 (%)	29.0	27.5	27.1

回次	第6期 第3四半期 連結会計期間	第7期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額 (円)	4.19	32.48

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当社株式は、平成27年3月24日をもって、東京証券取引所マザーズ市場に上場しているため、第6期第3四半期連結累計期間及び第6期連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、新規上場日から第6期第3四半期連結累計期間及び第6期連結会計年度の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
4. 1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定するにあたり「普通株式の期中平均株式数」のその計算において控除する自己株式数に、「日本マスタートラスト信託銀行株式会社(従業員持株ESOP信託口)」が保有する当社株式数を含めております。
5. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、連結子会社の異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

(1) 経営成績

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国は緩やかな回復が続いているものの、中国及び新興国における景気の減速、英国のEU離脱問題などから不透明感が増大しました。一方、国内においては、年初からの円高、為替相場の急激な変動、日銀によるマイナス金利の導入の影響はありますが、企業収益の回復や雇用情勢の改善が続く景気は不透明な要因を含みながらも底堅く推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境は、半導体メモリーの需給逼迫によるメモリー価格の上昇もあり、半導体メモリー各社は底入れから好調基調に反転し、当社グループ台南工場の稼働率も80%を超えて、ウエーハ事業の入荷は順調に推移しました。

以上の取組みの結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの業績は、ウエーハ事業の出荷増及び半導体生産設備の消耗材販売増などにより、売上高は、6,271,203千円（前年同期比60.3%増）となりました。営業利益は890,751千円（前年同期比5.0%増）となり、経常利益は、為替相場の変動による為替差損などから491,870千円（前年同期比31.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は242,280千円（前年同期比14.0%増）となりました。

事業のセグメント別の業績を示すと次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分について、「半導体生産設備の買取・販売」に係る売上高が事業拡大に伴い10%以上になったことにより「ウエーハ事業」「半導体生産設備の買取・販売」の2区分に変更しております。

（ウエーハ事業）

ウエーハ事業におきましては、再生市場の需要が堅調に推移したことなどから売上高は4,680,396千円、セグメント利益（営業利益）は954,380千円となりました。

（半導体生産設備の買取・販売）

半導体生産設備の買取・販売におきましては、消耗材の液晶モジュール等の販売増加により売上高は1,514,599千円、セグメント利益（営業利益）201,517千円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は5,002,986千円となり、前連結会計年度末と比較して1,110,359千円増加いたしました。これは主に現金及び預金284,431千円の減少、受取手形及び売掛金1,395,650千円の増加などによるものであります。

固定資産は5,240,497千円となり、前連結会計年度末と比較して604,612千円減少いたしました。これは主に建物及び構築物(純額)203,473千円の減少、建設仮勘定435,214千円の減少、投資その他の資産56,459千円の増加などによるものであります。

この結果、総資産は10,243,484千円となり、前連結会計年度末に比べ505,746千円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は3,063,771千円となり、前連結会計年度末と比較して768,157千円増加いたしました。これは主に支払手形及び買掛金161,409千円の増加、短期借入金636,001千円の増加などによるものであります。

固定負債は4,359,588千円となり、前連結会計年度末と比較して438,413千円減少いたしました。これは主に長期借入金326,684千円の減少、繰延税金負債111,901千円の減少などによるものであります。

この結果、負債合計は7,423,360千円となり、前連結会計年度末に比べ329,744千円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は2,820,123千円となり、前連結会計年度末と比較して176,002千円増加いたしました。これは利益剰余金242,280千円の増加、自己株式6,758千円の増加、為替換算調整勘定74,036千円の減少などによるものであります。

この結果、自己資本比率は27.5%(前連結会計年度末は27.1%)となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、62,791千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,442,500	5,442,500	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	5,442,500	5,442,500		

(注) 1. 提出日現在発行数には、平成28年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

2. 平成28年9月9日をもって、当社株式は東京証券取引所マザーズから同取引所市場一部に市場変更されております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日 (注)	2,500	5,442,500	500	616,950	500	616,940

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日（平成28年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

平成28年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	5,439,800	54,398	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	200		
発行済株式総数	5,440,000		
総株主の議決権		54,398	

(注) 「日本マスタートラスト信託銀行株式会社(従業員持株ESOP信託口)」が所有する当社株式数5,200株(議決権52個)を「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含めております。

【自己株式等】

従業員持株ESOP信託口の信託財産として保有する当社株式は、自己保有株式に含めておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年1月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,842,523	1,558,091
受取手形及び売掛金	970,873	2,366,524
商品及び製品	346,599	414,546
仕掛品	123,123	140,826
原材料及び貯蔵品	146,355	170,682
その他	463,151	352,315
流動資産合計	3,892,627	5,002,986
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,505,754	1,302,281
機械装置及び運搬具(純額)	3,607,520	3,610,119
その他(純額)	73,954	54,975
建設仮勘定	480,434	45,219
有形固定資産合計	5,667,664	5,012,595
無形固定資産	29,136	23,133
投資その他の資産	148,308	204,767
固定資産合計	5,845,109	5,240,497
資産合計	9,737,737	10,243,484
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	186,167	347,576
短期借入金	353,000	989,001
1年内返済予定の長期借入金	863,295	970,533
未払金	732,078	275,839
未払法人税等	8,949	240,137
賞与引当金	22,311	85,262
その他	129,810	155,420
流動負債合計	2,295,613	3,063,771
固定負債		
長期借入金	4,079,442	3,752,757
繰延税金負債	717,086	605,185
その他	1,472	1,645
固定負債合計	4,798,001	4,359,588
負債合計	7,093,615	7,423,360
純資産の部		
株主資本		
資本金	616,450	616,950
資本剰余金	616,440	616,940
利益剰余金	1,418,257	1,660,538
自己株式	17,094	10,336
株主資本合計	2,634,052	2,884,091
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	4,055	69,981
その他の包括利益累計額合計	4,055	69,981
新株予約権	6,013	6,013
純資産合計	2,644,121	2,820,123
負債純資産合計	9,737,737	10,243,484

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
売上高	3,913,079	6,271,203
売上原価	2,525,578	4,704,726
売上総利益	1,387,501	1,566,477
販売費及び一般管理費	539,453	675,726
営業利益	848,047	890,751
営業外収益		
受取利息	694	940
補助金収入	19,563	16,017
受取手数料	1,425	1,982
その他	5,026	7,469
営業外収益合計	26,709	26,409
営業外費用		
支払利息	63,660	57,120
株式公開費用	14,292	-
為替差損	55,538	344,519
その他	21,106	23,650
営業外費用合計	154,598	425,289
経常利益	720,159	491,870
特別利益		
国庫補助金収入	2,443,047	14,776
特別利益合計	2,443,047	14,776
特別損失		
設備移設費用	248,577	-
固定資産除却損	-	573
固定資産圧縮損	2,443,047	9,715
特別損失合計	2,691,625	10,289
税金等調整前四半期純利益	471,581	496,357
法人税、住民税及び事業税	2,470	220,686
法人税等調整額	256,633	33,390
法人税等合計	259,103	254,076
四半期純利益	212,477	242,280
親会社株主に帰属する四半期純利益	212,477	242,280

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	212,477	242,280
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	24,705	74,036
その他の包括利益合計	24,705	74,036
四半期包括利益	187,771	168,243
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	187,771	168,243
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(会計方針の変更等)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(追加情報)

(法定実効税率の変更等による影響)

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げが行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の33.0%から、平成29年1月1日に開始する連結会計年度から平成30年1月1日に開始する連結会計年度までに解消が見込まれる一時差異については30.8%に、平成31年1月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については、30.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産は4,100千円減少、繰延税金負債は32,692千円減少、法人税等調整額は28,591千円減少しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

有形固定資産に係る国庫補助金の受入れによる圧縮記帳累計額

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
機械装置及び運搬具	2,471,156千円	2,480,872千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
減価償却費	175,234千円	510,233千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

当社は、平成27年3月24日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。

上場にあたり、平成27年3月23日を払込期日とする有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)による新株式発行330,000株により、資本金及び資本準備金がそれぞれ417,450千円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金は616,450千円、資本剰余金は616,440千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年9月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める「ウェーハ事業」の割合がいずれも90%を超えているため、セグメント情報の記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結財務諸表計上額 (注)3
	ウェーハ事業	半導体生産設備の 買取・販売	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,680,396	1,514,599	6,194,996	76,207	6,271,203	-	6,271,203
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	4,680,396	1,514,599	6,194,996	76,207	6,271,203	-	6,271,203
セグメント利益	954,380	201,517	1,155,897	54,633	1,210,530	319,779	890,751

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソーラー事業、半導体の関連材料販売と技術コンサルティングであります。

2 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額は、各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。

全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

半導体生産設備の買取・販売に係る売上高が事業拡大に伴い報告セグメント売上高の合計金額の10%を超えたため、半導体生産設備の買取・販売を報告セグメントとして区分表示したことによるものです。

これにより、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントにおいて、「半導体生産設備の買取・販売」の売上高1,514,599千円、セグメント利益201,517千円を記載しており、「その他」が同額減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	39円78銭	44円58銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	212,477	242,280
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	212,477	242,280
普通株式の期中平均株式数(株)	5,341,206	5,435,098
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	38円59銭	43円29銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	164,172	162,048
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	平成27年6月19日決議 第2回新株予約権 100,000株 第3回新株予約権 153,400株	-

- (注) 1. 当社株式は、平成27年3月24日をもって、東京証券取引所マザーズ市場に上場しているため、前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、新規上場日から前第3四半期連結会計期間末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
2. 1株当たり四半期純利益金額の算定において、従業員持株ESOP信託が保有する当社株式を自己株式として処理していることから、期中平均株式数から控除する当該自己株式数に含めております。
- 1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は当第3四半期連結累計期間は5,320株(前第3四半期連結累計期間881株)であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月14日

株式会社RS Technologies
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 守 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神宮 厚彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社RS Technologiesの平成28年1月1日から平成28年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年1月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社RS Technologies及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。